

令和5年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会
第5回 エンディングノート作成部会 会議録

- 1 日時 令和5年12月13日(水) 19時15分～20時30分
- 2 場所 静岡市役所静岡庁舎 新館3階 茶木魚
- 3 出席者 (出席) 岡 部会長、金原委員、坪井委員、成島委員、平野委員、
河西委員、近藤委員、中村(美)委員
関係者：間淵委員、浅利委員、稲葉委員、坪川委員
(欠席) 中村(敬)委員
(事務局) 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 酒井次長
在宅医療・介護連携推進係 森川次長補佐、北原主任保健師、
白鳥主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 次第 (1) 開会
(2) 挨拶
(3) 議事
①協議事項
内容について
デザインについて
配布及び評価について
(4) 閉会
- 6 会議内容
(1) 開会宣言及び会議成立の報告
(2) 議事

事務局

(協議事項) 内容について 修正案その4(資料1)の説明

平野委員

4 ページ目、お薬情報等添付欄については、手帳を添付の方が間違いないということで、こういう形がよい。自由に書いてもらうのもこの形がやりやすい。5 ページ目からのところで、この前までは「これまでとこれからの人生を豊かにするために」という文言だったが、

「これまでの人生の振り返りとして」などのような「振り返り」という形にした文言の方がいいと思った。6ページ目の家系図のところは、ジェノグラムという言葉聞き慣れない人が多いと思うので、「ジェノグラム」を消したらどうか。

9ページ目、「どんな介護を望みますか」というところで、3番目に「病院や高齢者施設に入りたい」とあるが、「高齢者施設」の方がいいと思う。病院は、医療の延長プラス医療も介護も両方やってくれるという意味ではわかるけど、どちらかというところでは「特別養護老人ホームやグループホーム、有料老人ホームなど的高齢者施設に入りたい」とした方が、具体化してわかりやすい。

岡 部会長

この部分に関して何か質問等、意見はあるか。金原委員いかがか。

金原委員

最初に「覚悟」という字が出てきたが、重いと感じた。「備えと覚書」など、もう少し柔らかい表現の方がいいのではないか。

坪井委員

「覚悟」となると、追加記載をしていくノートなのに、何かここで覚悟しなきゃいけないのか、と構えてしまうところがあるので、検討した方がいい。5ページ目上部、「これまでとこれからの人生を豊かにするために」というところを「これまでの人生の振り返りとして」とし、7ページ目「これまで大切にしてきたこと」と「残りの人生を豊かにするために」というところに一部盛り込んでいるが、どうかと考えている。「これから大切にしたいこと」はいいが、「残りの人生」というところが気になる。

平野委員

表題のところは、そのような指摘が来るかと思いつつも、「覚悟」と入れた。資料2の【表題について】の中の「①ノートに込めた思いを示すもの」では、例えば「思いをつなぐ・希望を伝える・大切な方と作る」というのが、「②内容がすぐに伝わるもの」では、例えば「人生の終わりを迎えるための準備・もしものときの備え・いざというときのための準備」が挙がっている。これらを踏まえ、最後に決めればよいと思う。

5ページ目の「これまでの人生の振り返りとして」はよいのか、というところだが、7ページ目、「これまで大切にしたいこと」という表題と記入日、「楽しかったできごとや大切な思い出を自由に書いてみましょう。」だけでいいのか、そのあとの「残りの人生を豊かにするために」を消したときに「これから大切にしたいこと」「これまで大切にしてきたこと」「これから大切にすること」が一緒かもしれないというところもある。「残りの人生を豊かにするために」という文言は消してもいいかと思うが、いかがか。

浅利委員

「これまで大切にしてきたこと」と「これから大切にしたいこと」を分けるのは迷ったが、二つあっていいと思う。例えば、小さな目標を持ってやりたいという方もいる。先ほどの「残りの人生を豊かにするために」の文言については、なくても十分意図は通じる。

平野委員

同意見。「残りの人生を豊かにするために」は消していいが、要は過去を振り返り、未来を思い描いていくというような文言が入ることによって、過去から未来という時間軸の中で自分の立ち位置がどこかを自分で考えて振り返るので、このままでもいいと思う。間淵委員いかがか。

間淵委員

二つあっていい。まず、今まで大事にしてきたことは何だったのか、そしてこんなことを大事にしてきた自分だったらこれから大事にしていきたい、と想いを馳せられればいい。ただ「残りの人生を豊かにするために」はなくてもいい。

近藤委員

「残りの人生を豊かにするために」はいらない。「これまで大切にしてきたこと」と「これから大切にしたいこと」は両方あった方が、自分の中で、気持ちを分けられると思う。

成島委員

日常診療でこの話をすることは多いが、この「残りの人生を豊かにするために」は、あった方がわかりやすいと思った。「残り」の部分の表現に寂しいイメージがついてしまう。ここを「これからの人生を豊かにするために大切にしていきたいこと」という感じで、書いてもいいのではないか。

平野委員

反対の委員はいるか。

成島委員

関連すると、このエンディングノートの表紙の裏の「終活について考えてみませんか？」の三本柱の一番右も、「残りの人生」ではなく「これからの人生」でいいと思う。「残りの人生」という表現を「これからの人生」という表現に統一したい。

平野委員

「残り」という表現は、他のところにも文言が入っているかもしれない。事務局でも確認してほしいが、「残りの人生」を「これからの人生」という言葉に揃える形にした方が、終わりではなく未来を見据えた形になっていい。

河西委員

最後の 21～22 ページの「お問い合わせ先」に包括支援センターが書いてあるが、このエンディングノートのお問い合わせ先は包括にしてよいか。このノートで「お問い合わせ先」と書いてあると、どうやって書いて良いかわからないときに包括に電話してもらうのならよいが、その解釈でよいか。あと「申込みに関することなら」の部分で、何の申し込みに関することかわからない。一見したときに、何のために連絡するのかが気になった。ここに「●介護・保険・医療・福祉などの総合的な相談や認知症に関することなら」と書いてあるので、上の「お問い合わせ先」はなくても、「何々に関することなら」、という方がわかりやすいと思うが、いかがか。

事務局

「お問い合わせ先」を取るということでよいか。例えば「相談窓口」ではどうか。

河西委員

書き方がわからないから電話しよう、と思わないだろうか。

成島委員

そうすると、その後に出てくる「各種相談窓口」の変更が必要。

事務局

ここの表現については事務局で考える。「お問い合わせ先」だとこのエンディングノートに対するお問い合わせ・書き方と誤解されやすいということなので、何かいい表現があれば検討する。

平野委員

20 ページ目、『～「終活」をスムーズに進めるために～』の「●財産管理や行政手続きなどをお願いしたい人」は配偶者、子ども、任意後見人、終活支援事業者とあるが、専門的に見て、どうか。

坪川委員

任意後見人というのは任意後見に関する法律に基づいた公的な立場の人なので、こうい

う書き方がいいと思う。終活支援事業者は、市の方で優良事業者認証の認証制度を準備しているが、あくまでも民間の一サービスに過ぎない。そういう意味では、他に例えば、知人に財産管理を实はお願いしているというようなものと、法的な位置づけとしてはそんなに変わらないかもしれない。ここに盛り込むとすれば、その他（終活支援事業者など）ぐらいの方が、位置づけとしては正しいと思う。優良事業者認証の協力をここにおいてもいいか、という印象。

坪井委員

20 ページ目、「●財産管理や行政手続きなどをお願いする場合に利用したい制度」で※1、※2、※3があるが、この三つを並べると、※3の日常生活自立支援事業の方が、※1と※2と比べると簡単。このように並んでいると、※1から使うものなのかと一般の人はってしまうので、この順番をちょっと変えた方がいいと思うが、いかがか。

坪川委員

日常生活自立支援事業は、あくまでも本人に判断能力はあるが、自由に動けないというところをサポートする、という制度なので、軽い状態の方、より自由に動ける方が使うというもので、そういう意味でも、ここに並べて書くのがそもそも適切なのか、というのはある。だから、そういう意味では「●財産管理や行政手続きなどをお願いしたい人」のところと、任意後見人のところの間ぐらいに、自立支援を利用しているならば、どこのどういった形を使っているのかを書く欄を設け、その少し下にフォントサイズを小さくして、日常生活自立支援事業の説明を補足する。その下に、任意後見はこの人、終活支援事業者等はこう、という形にして、それを一括りにする。能力が落ちてきた場合に利用したい制度として、任意後見、法定後見というのもあるということ、書く内容は変えずにページの中に組み換え配置するのが適切ではないか、と感じた。

平野委員

事務局、よろしいか。

事務局

順番は、配偶者、子ども、サービスとして、括弧にして日常生活自立支援事業等というような書き方でよろしいか。それで任意後見人で、その次にまたその他として、括弧の中の終活支援事業者等、という順番で承知した。

平野委員

日常生活自立支援事業は「●財産管理や行政手続きなどをお願いする場合に利用したい制度」の上に、別項目で入れるということか。その説明と、その並びはどうするか。

坪川委員

「●財産管理や行政手続きなどをお願いしたい人」の中に、生活支援事業所の一種として出したらどうか、という趣旨だったが、そのくくりの中に位置付けていいのかどうか。支援計画の作り方や中身によっては、行政手続きの申請とかの補助のような形で使えることもある。この中に入れることは不適切ではないが、今から配偶者や子供に作業やサポートをお願いするという含めいろいろ出てくるはずなので、広くサポートに使えるものをまとめておくという形がよいのではないか。

平野委員

そうすると、※3を※1にして、それを広く優先で一番に出して、その後に任意後見制度が※2、例えば法定後見制度が※3、という並びにした方がよいか。

坪川委員

そうではなく「●財産管理や行政手続きなどをお願いしたい人」の括りの中に、配偶者、子ども、その次に日常生活支援事業、その下に説明を添え、続いて任意後見人、終活支援事業者等その他というようにする。「●財産管理や行政手続きなどをお願いする場合に利用したい制度」には、今ある※1と※2を残す、というイメージ。

平野委員

わかりました。

稲葉委員

日常生活自立支援事業に関して、財産管理というのは日常的な金銭管理の範囲において本人に代わり入出金の支援ができるということで、行政手続きについては基本的には本人の判断能力に基づき、一緒に契約内容等を確認して、あくまでも本人が手続きを行うのをサポートするということにとどまる話になってくる。

坪川委員

配偶者や子どもも、明確に代理権を与えられていなくとも、サポート的に動くということもある。そういう意味で、ここに元々4つ書いてあるものは完全に権限があるが、任意後見人の場合だけ異なってくる。表題を「●財産管理の補助や行政手続きの支援などをお願いしたい人」と、少し緩めて変えた方が正確。

18 ページ、「●相続」のところだが、こうしたいという思いを書いてもらうのはいいが、実現しようとしたときに拘束力がない。意向に沿うためには遺言が必要だということを、強く意識してもらった方がいい。遺言については、何回も作れるもので、基本的に最後に作ったものが有効という扱いになる。遺言をいつどういう形で作ったか、「●相続」のような表

の形で残しておけるようにするのも一つの方法。

平野委員

法的な拘束力というのは最後、遺言書に残さないと駄目だということを、「注意」にも書いてあるが、さらに強く意識してもらうような書き方に変えた方がいい、ということではないか。

坪川委員

その通り。

平野委員

そこを少し法的なものも含めて直していただきたい。

岡 部会長

法的なことに関して遺言書が必要だと、一番下に※印でもいいから書くことで、後で混乱を起こさないで済む。

坪川委員

2 回ほど、くどく書いておいてもいい。「希望があるならば遺言書に残してください」と書いておいていい。もし事務局でそういう方針で書き直していけるのであれば、私の方で手伝う。

平野委員

ここに書いて遺言を残した気になると、何も法的な意味合いがないため、亡くなった後には、トラブルの原因になる可能性が出てくる。あくまで、法的な拘束力のある「遺言書」を作るかどうか、ということ。そこを坪川委員と練ってもらいたい。

坪井委員

19 ページ、「●遺言書作成の手続き」に、遺言書には「実質証書遺言」、「公正証書遺言」、「秘密証書遺言」の三つがあり、自筆証書遺言と公正証書遺言には説明の記載があるが、秘密証書遺言についての記載は不要か。

坪川委員

最も典型的に使われるのが「自筆証書遺言」と、公証役場で作る「公正証書遺言」で、細かいことを知りたい方には各種相談窓口を案内する形でいいと思う。この 3 種があると書く他に、自筆証書遺言、公正証書遺言等がある、と書く方法もある。

平野委員

「等」を用いるのがよい。形式3つを明記するのではなく、代表的な二つの説明を書くという形でよろしいか。

全委員

(賛成)

坪川委員

22 ページ、「●各種相談窓口」だが、弁護士会でも成年後見、遺言の相談の対応をしているので、市民相談室での法律相談等紹介してもらってもよい。また、行政書士会や司法書士会自体を案内先にしてもいいかもしれない。

ここに載っていないが、相続のことならば税理士会にも情報提供した方がいい。スペースに余裕があれば入れ込んでほしい。

平野委員

法律的なところは、引き続き坪川委員と詰めてもらいたい。

表題について、「覚悟」はやめてほしいということで、「もしものときの備え」にするか、他に「人生の終わりを迎えるための準備」「いざというときのための準備」という案もあるが、どうか。

事務局

事務局から出てきた案として「ライフクロージングノート」「人生会議手帳」「人生整理手帳」「人生総括手帳」「人生最終計画ノート」が出てきた。どんなものがよいか。

成島委員

副題の部分に「これからの人生を豊かにしていくために」と、思いや内容が込められていると思うと、本題の方は、個人的には「エンディングノート」でわかりやすくいいと思う。他の自治体で完成したものがあったら、参考にできるのではないか。

中村（美）委員

完成されたエンディングノートが包括のカウンターにおいたとして、バツと来た方が目にしたときに、それが何のノートなのか一目でわかるような表題をつけ、この下の「これからの人生を豊かにしていくために」と付け加えてもらえれば、手にとってもらいやすいのではないか。

平野委員

他市のものは「これまでの人生とこれからの自分へ 私のエンディングノート」と書いてある。また「私と家族の終活便利帳」というものもある。

河西委員

「私の人生連絡ノート」はどうか、という意見があった。マイナスなイメージではなくて自分のことをわかってほしいという思いも書いてもらう連絡帳のようなのはどうか、という意見があった。

金原委員

私が一番気に入ったのが「思いをつなぐ」という文言。だが、それだけだとわからないので、下の方に小さくてもいいから「エンディングノート」という文言を入れるとわかりやすいと思った。

平野委員

成島委員から、そのまま「エンディングノート」がわかりやすい、と意見を出してくれている。

成島委員

ただ「エンディング」だけだとマイナスのイメージがある。これの意図は「これから人生を豊かにしていくために書きませんか」というぐらいの意味合いで、プラスマイナスゼロにしたい。どんな文言でもよいが、わかりやすい方がいいと思った。

平野委員

「エンディング」という言葉を入れるとどうなのか、という悩みが挙がるが、他市町でも「エンディング」が入っているところは多い。「エンディングノート」と言葉がおそらく市民の認知の中に入っているので、それを聞いたときに、嫌という感じにはならないと思う。

河西委員

「ノート」と書いてある方が、自分が書くものだというのがわかりやすい。あと、「もしも」というと、防災の「もしも」と思ってしまうのではないか。勘違いさせないためには、「エンディングノート」の表題の下に、市の思いを副題として入れた方がシンプルではないか。

成島委員

「もしもの時に備えて」は、ここではオブラートに包んだ表現で、取っ掛かりやすくする

という点では賛成だが、災害の「もしも」と混同されると紛らわしいとも感じた。

平野委員

「マイエンディングノート」との「マイ」は不要。「エンディングノート」の表題に、「これからの人生を豊かにしていくために」という思いをこめた副題を入れるというシンプルな方がいい。

浅利委員

わかりやすさを考えると、同感。一方で、内容を見ていくと、自分のことを伝えていくという意味がとて強い。「私の人生の連絡ノート」や「私の連絡ノート」でもいいと思う。副題がしっかりしていればいいとも思う。

平野委員

「エンディングノート」は、皆が認知している言葉になりつつある。中高年ならば、「終活のことを考えるノート」と頭に浮かぶのではないか。

坪川委員

最初は、特に高齢の方や重い病気の方に「エンディングノート」を作ってもらおうとすると、すすめづらいついていた。だが、我々の世代の人間がある日とつぜん、脳や心臓で倒れたりしたときにも結構役立つだろう。そういう意味では、定期的に作成し見直すようにすると、自分の人生を複眼的・立体的に、自分の周りの人間関係を含め考えられるようになっていく。定期的に作ってみると、その人のQOLが上がっていくような材料にできるのではないか。そうなっていれば、「エンディングノート」という言葉の若干暗いイメージも薄れていくと思う。そういう願望込みで、「エンディングノート」という名前はプラスの意味で使ってもいいのではないか。

岡 部会長

同意見。副題は継続して考えるとして、表題は静岡市エンディングノートということで、いかがか。

平野委員

賛成。副題は「これからの人生を豊かにしていくために」でいいと個人的には思う。表題は「エンディングノート」でいかがか。

全委員

(賛成)

平野委員

副題は、「これからの人生を豊かにしていくために」、で進めさせていく。

表紙カバーだが、事務局が写真、花、木、山などのイラスト、後は実際の花（ダリア・洋菊）と荒川からの富士山を用意してくれている。意見はあるか。

成島委員

個人的には花のイラストがいいと思うが、菊ではない方がいい。

平野委員

皆の思いで「先を見据えて」というところがあるので、この中で言えば「荒川からの富士山」だと先が見渡せるイメージのように思う。その中で、歩いている姿があると、歩きながら先が見えるというイメージにつながる。また、共に誰かと歩く、未来が見えると先が見えるということにつながるようなイメージで、山なり自然なりがいいと思う。

事務局

事務局から補足。装丁等、エンディングノートは案を作ってもらった。その後、業者に発注する際、デザイン部門のプロの人たちから提案してもらえる。事務局ではイメージを伝え、先方から提案が返ってくるという形なので、どんなイメージがいいかを教えてもらえれば、我々としても伝えやすい。実際に写真を撮るかは、業者が示す提案の中に出てくるだろう。その時は市民カメラマン云々に関しては著作権をクリアした写真が使われると思っている。

中村（美）委員

山の方がいいのだが、この「荒川からの富士山」は、手前に険しい山があって圧迫感が強い。それよりは、青い空と雲とかがあって、見渡せば広く、清々しく明るい感じのする方がいいと思う。

平野委員

静岡の人に馴染みのあるものもいいかもしれない。イメージをプロに任せるので、イメージを挙げてみてほしい。

成島委員

花で選ぶのであればイラストがいいし、そうだとっても菊ではない方がいい。花よりは、広いところに雲がバラバラあり、そちらを見上げるような感じ。下から上を見上げるような開けた感じの方がいい。静岡にはないかもしれないが、イラストがいい。

平野委員

花ではなく、そういうイメージが描ける自然、それか静岡に馴染んだものであればなおさらいいというところではないか。

最後、内装について。「項目ごとに基調となる色を変え、インデックスをつける」。

事務局

(内装について) 事務局より説明

平野委員

デザインを業者に出してもらおうということだが、その良し悪しの評価は誰がするのか。

事務局

事務局で行うと思われる。発注が年明け2月ぐらい、最終稿は3月ぐらいを想定している。おおまかなイメージを共有したいので、意見や提案、色のイメージなどあれば教えていただきたい。

成島委員

文字がぎっしり詰まりすぎているとしんどさを感じる。イラストなども入れ、遊びや、ゆとりの空間を作り、字のフォントも工夫してほしい。

事務局

実際このA4を想定しているので、もう少し隙間があると思う。

河西委員

この紙質は、このガイドブックのようにツルツルなのか。

事務局

以前、示したサポートファイルの表紙と中の上質紙を想定しており、ガイドブックはインデックスの見本としてお示している。

河西委員

お年寄りにはボールペンを使わず、鉛筆を使うので、ツルツルだと書きづらい。

平野委員

このガイドブックはあくまで説明用。要望があれば直接事務局に言ってもらってよい。

事務局

(配布及び評価について(資料3)の説明)

岡 部会長

意見、質問はあるか。

全委員

(意見・質問なし)

平野委員

今年度、何部発行予定か、増版の見通しなど、委員に共有してほしい。このQRコードで意見が出た後に、そこをもう一度話し合うかもしれないので、来年度のことを案内してもらいたい。

事務局

今年度は1万部作成予定。来年度については今のところ増刷の予定。

平野委員

手に取ってもらい、直した方がいい点などの意見がいろいろ出てきたときに、大幅ではないにしろ変更するのであれば、来年度の増刷のタイミングで考えている、ということよろしいか。

事務局

軽微な修正ならば事務局の方で修正する。大幅な変更の場合は、在宅医療介護連携協議会の啓発研修部会等にて検討するか、もしくはまたこのように集まってもらうか、未定ではあるが想定している。市民の皆様、使われた方の意見を受けて、使いづらいとか、こうした方がいいとかいう部分もあれば、またその時には各委員に声を掛けさせていただくこともあるかもしれない。

これは完成ですが、それが修正されていくことになると思うので、また実際使っていただき意見をもらえればと思う。

浅利委員

広く市民にこうしたACP、エンディングノートの所在を広めていくためにも、また健康段階に応じて、こうしたことを考えていく底辺を広げるというふうに考えると、まずは65歳以上の介護保険者証を送られるときに、こうしたノートがあるから活用を、というようなアナウンスを1枚のチラシなど、健康なうちから考えてもらえるように広く、周知活動に生かしていただけるといい。そこからまたどんどん若い世代に広がっていけばいい。

事務局

先ほどいろいろ修正などを指示してもらったが、例えば相続については坪川委員に相談するというように、個別に相談させてもらい、そして事務局と岡 部会長、平野委員、リーダーと話をして微修正をしていくということによろしいか。

平野委員

それでよい。

(閉会)

■会議録確認署名

「令和5年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会 第5回エンディングノート
作成部会 会議録」について、内容を確認しました。

静岡市在宅医療・介護連携協議会 エンディングノート作成部会 部会長

氏名 (署名)

岡 稔 一郎